試合会場レポート

第68回全日本バレーボール高等学校選手権大会　愛知県決勝大会

2015年11月21日

会場：名古屋市天白ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ

■男子決勝

星城高等学校	3			2	愛知工業大学名電高等学校
		25	第1セット	20	
		23	第2セット	25	
		23	第3セット	25	
		25	第4セット	22	
		15	第5セット	13	

真子（2年）	石黒（2年）	先発メンバー	松田（2年）	加藤（3年）
都築（2年）	森（3年）		上田（1年）	野村（2年）
佐々木（潤）（2年）	濱田（2年）		古沢（3年）	水野（3年）
新谷（2年）	横井（2年）	リベロ	山下（3年）	犬飼（2年）

＜戦評＞

星城高等学校が僅差で愛知工業大学名電高等学校から勝利をもぎ取った。いずれ劣らぬ力強く美しいバレーボールに、満員の観衆は大いに沸き上がった。「願わくば2校とも全国大会に」と言いたくなる試合内容であった。

第1セットは序盤に二度の3連続得点を挙げて9－4とリードした星城高等学校が、結果的にそのリードを維持してキープした。両チームのアタックポイントは、星城高等学校がライトから8本、愛知工業大学名電高等学校は時間差で7本と、互いの持ち味の出たセットであった。ブロックによる得点が星城高等学校が5本、愛知工業大学名電高等学校が1本と、この差がセットを奪う要因であった。

第2セットは、愛知工業大学名電高等学校のセッター野村が、相手ブロッカーのマークを外す巧みなトスワークを見せた。20－20から上田がレフトからストレートを打ち抜き、続いて古沢がネット上の押し合いに勝ち、さらに相手のミスで23－20とリードした場面が分かれ目となった。

第3セットは序盤に愛知工業大学名電高等学校の松田、水野、古沢らのブロックが炸裂。6－2で星城高等学校に二度目のタイムアウトを取らせた。愛知工業大学名電高等学校は終盤22－16とリードを広げたが、ここから星城高等学校が5連続得点で盛り返し、石黒のサービスエースで23－23となった。最後は2本のスパイクで愛知工業大学名電高等学校がセットを奪ったが、星城高等学校のこの粘りが第4セットにつながる結果となった。

第4セット、星城高等学校は10－11から都築のサービスエースを含む3連続得点で逆転。16－16からは5連続得点を奪って優位に立った。21点目に相手の時間差攻撃を1枚で仕留めた石黒のブロックポイントが大きかった。

最終セットも星城高等学校が5－6から3連続得点を奪い主導権を握った。8点目、相手のコートエンドぎりぎりに入った濱田のノータッチサービスエースがチームを勢いづけた。このセットは都築がアタックとブロックで5得点。高い打点からの足の長いスパイクや、プッシュ、ブロックアウトを奪う攻撃など、都築のうまさが目立った。

敗れた愛知工業大学名電高等学校も時間差攻撃を軸に巧みな攻撃、美しいブロックを何度も見せた。

■作成者：　冨田　崇

試合会場レポート

第68回全日本バレーボール高等学校選手権大会　愛知県決勝大会

2015年11月21日

会場：名古屋市天白ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ

■女子決勝

岡崎学園高等学校	3	18	第1セット	25	1	高倉学園　豊橋中央高等学校
		25	第2セット	23		
		25	第3セット	15		
		25	第4セット	14		
			第5セット			

高間（1年）	長瀬（3年）	先発メンバー	中尾（1年）	山本（3年）
浅野（3年）	吉田（2年）		三浦（1年）	栗栖（2年）
堀場（3年）	梶川（3年）		山田（1年）	鈴木（千）（1年）

水谷（3年）	細井（3年）	リベロ	成瀬（3年）	菅沼（2年）

＜戦評＞

岡崎学園高等学校が尻上がりに調子を伸ばし、最後はセーフティーリードを保った余裕のある展開で勝利を収めた。ターニングポイントは、第2セットの終盤にあった。21－23とリードされて二度目のタイムアウトを取った岡崎学園高等学校だったが、終わってみればそこから一気に4点を連続で奪ってセットをものにしたのである。そのうち2点は浅野のスパイクによるもので、1本は23点目をライトからクロスへ抜いて決め、もう1本は25点目をライトサイドからセッター前へ移動してAクイックを決めた。また、24点目に、それまで苦しめられていた相手ブロッカーをものともせずレフトから強打を放ち、ブロックアウトを取った梶川も見事であった。このセットを奪うと、あとは岡崎学園高等学校の攻撃面でのプレッシャーが強まるばかりで、次々に相手に集中攻撃を浴びせかけた。第3セットはレフトの高間が覚醒し、このセットの岡崎学園高等学校の原動力となった。高間はこのセット、スパイクで7点を奪った。第4セットは序盤に梶川の2本のサービスエースを含む4連続得点と、直後の3連続得点で7－3とリード。中盤には梶川がこのセット3本目となるサービスエースを奪って14－9とし、15－10からは怒濤の7連続得点で勝負を決めた。岡崎学園高等学校は、このセット、相手にスパイク3本、サーブ1本しか決めさせなかった。

スタメンに4人の1年生を据えてフレッシュなバレーボールを繰り広げた高倉学園豊橋中央高等学校だったが、第1セットを奪ったものの徐々に相手に順応され、思うようなバレーができなくなってしまった。その中で、山田の7本のブロックポイントは突出しており、相手のアタッカー陣を苦しめる場面が見られた。

■作成者：　冨田　崇